



CHAPTER 3

Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender の接続

この章では、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender のポートに接続する方法を説明します。



注意

電源コードおよびデータ ケーブルをオーバーヘッド ケーブル トレイまたはサブフロア ケーブル トレイに配線する場合には、電源コードおよび他の潜在的なノイズ発生源を、シスコ機器で終端するネットワーク配線からできるかぎり遠ざけてください。長いパラレル ケーブルを 3.3 フィート (1 m) 以上離して設置できない場合は、ケーブルをアース付きの金属製コンジットに通して、潜在的なノイズ発生源をシールドしてください。

この章の内容は、次のとおりです。

- [ネットワーク接続の準備 \(P.3-2\)](#)
- [1 ギガビット イーサネット ポートへの接続 \(P.3-2\)](#)
- [10 ギガビット イーサネット ポートへの接続 \(P.3-2\)](#)

ネットワーク接続の準備

Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender のネットワーク接続を準備するときは、各インターフェイスタイプについて次の事項を考慮し、ポートを接続する前に必要なすべての機器を揃えてください。

- 各インターフェイスタイプに必要なケーブル
- 各信号タイプの距離制限
- 必要な他のインターフェイス機器

1 ギガビット イーサネット ポートへの接続

ここでは、1 ギガビット イーサネット ポートをホストに接続する方法を説明します。

1 ギガビット イーサネット ポートには RJ-45 インターフェイスがあります。48 個の 1 ギガビット イーサネット サーバ ポートがあります。

1 ギガビット イーサネット ポートをホストに接続する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** 1 ギガビット イーサネット ポートに、対応するモジュラ ケーブルを接続します。
- ステップ 2** ケーブルの反対側をデバイスに接続します。
-

10 ギガビット イーサネット ポートへの接続

ここでは、10 ギガビット イーサネット ポートをホストに接続する方法を説明します。ネットワーク側 10 ギガビット イーサネット ポートは、Cisco Nexus 2148T および 2248TP には 4 個、Cisco Nexus 2232PP には 8 個あります。SFP+ トランシーバを使用して 10 ギガビット イーサネット ポートに接続します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [SFP+ トランシーバの取り外しおよび取り付け \(P.3-2\)](#)
- [SFP+ トランシーバのケーブルの取り外しおよび取り付け \(P.3-4\)](#)
- [SFP+ トランシーバおよびケーブルのメンテナンス \(P.3-6\)](#)

SFP+ トランシーバの取り外しおよび取り付け



注意

SFP トランシーバの取り付けおよび取り外しを過度に行うと、耐用年数が短くなります。SFP+ トランシーバの取り外しおよび取り付けは、必要以上に行わないでください。SFP トランシーバの取り付けまたは取り外しを行う際は、ケーブルやトランシーバの破損を防止するため、ケーブルを抜いた状態で行うことを推奨します。

ここでは、SFP+ トランシーバの取り付け方法および取り外し方法を説明します。次の内容について説明します。

- [SFP+ トランシーバの取り付け \(P.3-3\)](#)
- [SFP+ トランシーバの取り外し \(P.3-3\)](#)

SFP+ トランシーバの取り付け

SFP+ トランシーバを取り付ける手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを着用して、使用法に従います。
- ステップ 2** ポート ケージのダスト カバーを外します。
- ステップ 3** トランシーバのポート側のダスト カバーを外します。
- ステップ 4** 次のようにトランシーバをポートに差し込みます。
- マイラー タブ ラッチ付きのトランシーバの場合、タブが下にくるようにし、ポートにしっかりはまるまでトランシーバをゆっくり差し込みます。
 - ベールクラスプ ラッチ付きのトランシーバの場合、クラスプが下になるようにし、クラスプを持ち上げてトランシーバの上部で閉じてから、ポートにしっかりはまるまでトランシーバをゆっくり差し込みます。

**注意**

トランシーバが取り付けにくい場合は、トランシーバの向きと、タブやクラスプの位置が正しいかどうかを確認してください。

**(注)**

ケーブルをトランシーバに接続できない場合は、トランシーバのケーブル側にダスト カバーを取り付けるか、またはそのままにします。

SFP+ トランシーバの取り外し

SFP+ トランシーバを取り外す手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを着用して、使用法に従います。
- ステップ 2** トランシーバにケーブルが接続されている場合、次のいずれかの手順を実行します。
- あとで参照するために、ケーブルとポートの接続を記録しておきます。
 - ケーブルのリリース ラッチを押し、コネクタの接続部付近をつかんで、コネクタをトランシーバからゆっくり引き抜きます。
 - ダスト プラグを、トランシーバのケーブル側に差し込みます。

**注意**

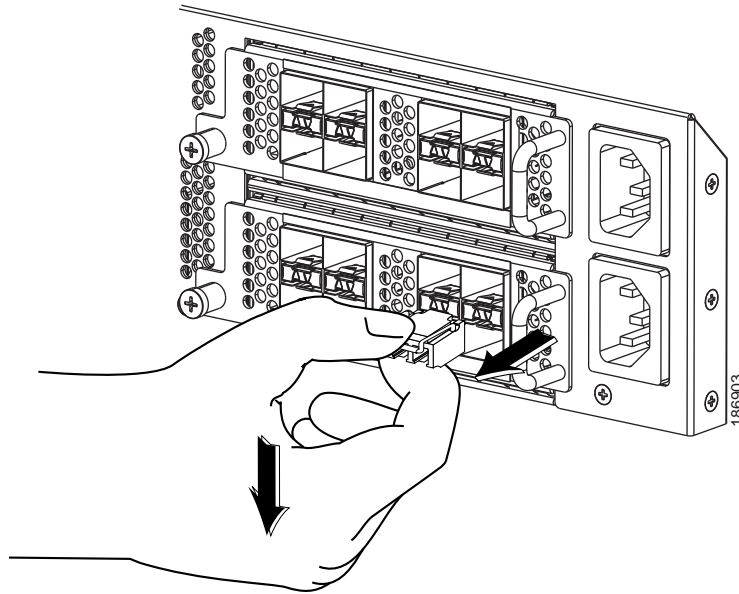
次の手順でトランシーバが容易に外せない場合、トランシーバを完全に押し込んで、ラッチが正しい位置にあるかどうか確認してください。

- ステップ 3** 次のようにトランシーバをポートから取り外します。
- マイラー タブ ラッチ付きのトランシーバの場合、タブをまっすぐに（ひねらずに）ゆっくり引っぱり、ポートからトランシーバを抜き取ります。
 - ベールクラスプ ラッチ付きのトランシーバの場合、下方向にクラスプを押し開き、ポートからトランシーバを抜き取ります。



(注) ベールクラスプ付きの SFP+ トランシーバを取り外しにくい場合、一旦ベールクラスプを上への位置に戻して SFP+ を再固定します。そして、SFP+ トランシーバをケージの内側に向かって上向きに押します。次に、ベールクラスプを下げ、SFP+ トランシーバに軽く上向きの力をかけながら引き出します (図 3-1 を参照してください)。このとき、ポート ケージを傷つけないよう注意してください。

図 3-1 ベールクラスプ付き SFP+ トランシーバの別の取り外し方法



- ステップ 4** トランシーバを工場に返送する場合、トランシーバのポート側にダスト カバーを挿入し、トランシーバを静電気防止用マットの上に置くか、または静電気防止袋に入れます。
- ステップ 5** 別のトランシーバが取り付けられていない場合、オプティカル ケージにきれいなカバーを挿入して保護します。

SFP+ トランシーバのケーブルの取り外しおよび取り付け

ここでは、SFP+ トランシーバのケーブルの取り付け方法および取り外し方法を説明します。



注意

銅ケーブルの損傷を防ぐために、ケーブルに公称制限値を超える張力をかけないでください。また、ケーブルに張力がかかっていない場合でも、ケーブルを半径 1 インチ未満に曲げないでください。ケーブルに張力がかかっている場合は、半径 2 インチ未満に曲げないでください。

ここでは、次の内容について説明します。

- SFP+ トランシーバへのケーブルの取り付け (P.3-5)
- SFP+ トランシーバからのケーブルの取り外し (P.3-5)

SFP+ トランシーバへのケーブルの取り付け

**注意**

ケーブルやトランシーバの破損を防止するため、トランシーバへのケーブルの取り付けは、トランシーバをポートに設置してから行ってください。

トランシーバにケーブルを取り付ける手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを着用して、使用方法に従います。
- ステップ 2** ケーブルのコネクタのダストカバーを外します。
- ステップ 3** トランシーバのケーブル側のダストカバーを外します。
- ステップ 4** ケーブルコネクタをトランシーバに合わせ、しっかりはまるまでコネクタをトランシーバに差し込みます。

**注意**

ケーブルが取り付けにくい場合、ケーブルの向きを確認してください。

接続の確認手順については、『Cisco Nexus 5000 Switch Configuration Guide』を参照してください。

SFP+ トランシーバからのケーブルの取り外し

**注意**

トランシーバからケーブルを引き抜くときは、ケーブルのコネクタ部分を持ってください。コネクタの光ファイバケーブル端子が損傷することがあるので、ジャケットスリーブを持って引っ張らないでください。

**注意**

ケーブルが抜けにくい場合は、ケーブルのラッチが外れているかどうか確認してください。

ケーブルを取り外す手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを着用して、使用方法に従います。
- ステップ 2** ケーブルのリリースラッチを押し、コネクタの接続部付近をつかんで、コネクタをトランシーバからゆっくり引き抜きます。
- ステップ 3** ダストプラグを、トランシーバのケーブル側に差し込みます。
- ステップ 4** ダストプラグを、ケーブル端に差し込みます。

SFP+ トランシーバおよびケーブルのメンテナンス

高精度の信号を維持し、コネクタの損傷を防ぐためには、SFP+ トランシーバを常に埃のない清潔な状態に保つ必要があります。減衰（光損失）は汚れによって増加します。減衰量は 0.35 dB 未満でなければなりません。

メンテナンスの際には、次の注意事項に従ってください。

- SFP+ トランシーバは静電気に敏感です。静電破壊を防止するために、シャーシに接続している静電気防止用リストストラップを着用してください。
- トランシーバの取り外しおよび取り付けは、必要以上に行わないでください。取り付けおよび取り外しを頻繁に行うと、耐用年数が短くなります。
- 未使用の光接続端子には、必ずカバーを取り付けてください。埃が付着した場合には、埃によって光ファイバケーブルの先端が傷つかないように、使用前に清掃してください。
- 指紋などで汚れることがあるので、コネクタの先端には手を触れないでください。
- 定期的に清掃してください。必要な清掃の頻度は、設置環境によって異なります。また、埃が付着したり、誤って手を触れた場合には、コネクタを清掃してください。ウェットクリーニングやドライクリーニングが効果的です。設置場所の光ファイバ接続清掃手順に従ってください。
- 埃が付着していないこと、および損傷していないことを定期的に確認してください。損傷している可能性がある場合には、清掃後に顕微鏡を使用してファイバの先端を調べ、損傷しているかどうかを確認してください。